

東日本大震災支援 NGO 情報交換会（第 4 回）

日時：2011 年 4 月 4 日（月）16 時～18 時

場所：早稲田奉仕園 6 階 スカイルーム

出席者：出席者リスト参照

司会：JANIC 事務局長（山口）

議事録

1. JANIC からの情報提供

1.1 サポート募金の支払いについて（富野）

3 月分については 3 月末で締め、4 月中旬か 20 日頃を目処に支払う。3 月末時点のクレジット決済を除いた実入金は 400 万円程度。現在申込ベースでは約 2500 万円。活動内容などを再度確認してから振り込む。募金受付は 9 月 30 日まで延長。

1.2 ソフトバンク携帯電話の貸与

ソフトバンクから現地で活動する団体の連絡用に携帯電話 50 台を JANIC として借りた。希望があれば 1 団体 3 台程度を目処に貸出を行う。貸出期間は当初 3 ヶ月（震災発生時点から）の予定だが、今後交渉して延長してもらえればと考えている。通話料は無料。

1.3 現地での注意事項

NGO の支援活動について、地元でクレームがついた件があった。

ある NGO が複数の避難所で支援活動を行っていたが、受益者が減ったということで、受益者および社協、ボランティアセンターに連絡無く撤退した。また、現地での活動を行う際に現地でアルバイトを募集し、そのアルバイトが活動を担当していた。地元では、今までボランティアベースでやってきたのに有償の担当者が入ることによって、地域における従来のシステムが壊れることになる、という声があった。

NGO の本部担当者と話をしたところ、社協、ボランティアセンターなどへの連絡が遅れたことはあるかもしれない。受益者への説明は行ったが、説明した時に来ていなかった人は説明が無かったと感じた可能性がある、とのこと。また、アルバイトについては、地元組織及び NPO とは話し合ってから入ったのであり、事前にオリエンテーションもしていた。誤解やコミュニケーション不足があったようだ。

教訓として以下のようなことに注意をお願いしたい。

- ・ 現地で活動を開始するときに、社協や災害ボランティアセンターなど、地域の支援組織

に対して事前に連絡の上、活動を開始するのはもちろんだが、活動の終了に際しても、パートナー団体や対象者だけでなく、開始時と同様に社協や災害ボランティアセンターに事業の終了を報告する。

- ・ 現地で必要な人員を雇用する場合、現地に従来からある関係性を壊すことにならないように慎重にすべきである。それは、途上国において、国連機関や欧米の NGO が優秀なローカルスタッフを高給で雇い入れるということと同じ図式になりかねない。

< 質疑応答・意見交換 >

博報堂（中野）：支援金の一部が人件費にいくのはかまわないことだと思っているが、一般に説明する際など何割ぐらいが妥当か。

JANIC（山口）：通常海外プロジェクトでは現地での人件費はプロジェクト費にいれ、一般管理費を決まった割合もらうのが普通だと思う。管理費は、国連などは 20 パーセントぐらいのところもあるが、前回のミーティングでは、10～15 パーセントぐらいが妥当では、との意見が多かった。今日ご参加の団体では何パーセントぐらいにしているか。

アユス（枝木）：通常 10%だが、今回はもう少し少なくしようと思っている。

ワールド・ビジョン（片山）：一般管理費は MAX5%。現地の人件費はプロジェクト費の 12～15%ぐらい。

チャイルド・ファンド・ジャパン（細井）：15%。

シャプラニール（筒井）：今回については未定。中央共同募金会などから間接費の支援が出るという話を聞いたので、それが出ればそちらにお願いし、集まった募金は全部現地活動費にと考えている。

JANIC（山口）：中央共同募金会のボランティア・NPO 活動支援募金については、全額間接費というわけではない。当初は人件費は出さないといっていたのを、どれだけ出せるかはまだ検討している段階。

JANIC（大橋）：集まった金額によってもパーセントは違ってくると思うが、この活動のために NGO 本来の現地での活動が割りを食うのもおかしなことなので、一定の常識的な割合は説明できるような形にしておきたい。

ワールド・ビジョン・ジャパン（片山）：「人件費」というと、現地での人件費も入ってしまう。オペレーションの内容によってはほとんど活動費が人件費ということもあり得る。「管理費」なのか「人件費」なのか、言い方に注意する必要がある。

JANIC（山口）：表現方法については考える。慎重にやっていきたい。考え方としては、集まった寄付金の一部を人件費を含む管理費にも使うということが共通概念であろう。

博報堂（中野）：現場に行くと、モノは集まっているがコーディネートが大変。人件費はかなりかかるはず。「人件費」のことをなんとと言えば一般の人に理解をもらいやすいのか。

ワールド・ビジョン・ジャパン（片山）：活動によってコストが変わってくる。当初は物品購入費の割合が多いが、これから復興になってくると、人件費の割合が高くなる。表現

については組織内でも検討中。

大和証券（川口）：スマトラ沖の信託報酬方式では 10%を間接費として ACT に支払うことにしていたが、10%では厳しいので 20%にしてほしい、と言われた。それについて社内で理解を得るのが大変難しかった。普通の人には 10%でも多いと思っている。

JANIC（山口）：昨日の日経にも出ていたが、2013 年から NPO 会計基準が変わり、すべての認定 NPO に対して人件費を明示することが求められる。各団体で工夫が必要。

内閣府災害ボランティア連携室の伊知地さんの紹介。政府と NGO/NPO の連携の窓口としてご尽力いただいている。

JPF&JANIC の海外 NGO 向け Recommendation（英文）の紹介。（参考として）

2. 各団体からの活動報告と情報提供

ここ 1 週間での変化や進捗を中心に報告をお願いしたい。

（ピースポート）

- ・ 石巻で活動を継続している。社協への運営サポートにも入りながら活動。社協との関係を広げ、市の災害対策本部とも連携している
- ・ 26 日から 50 人のボランティアで炊き出し等を行っている。今週末も 200 名送り込む予定。
- ・ これから道路のヘド口の掃除のため、若手のボランティアを募集していく。文科省からも学生のボランティア希望者に対して単位を認めるように通達が出たので、学生が参加しやすくなるだろう。

（シャプラニール）

- ・ 福島県いわき市南部で活動。宮城などと比べると 1 週間から 10 日ほど救援の進捗が遅い。
- ・ ようやく災害ボランティアの立ち上げがいわき市南部で地元の NPO やシャプラニールも入れて始まろうとしている。社協、福島県職員も入ってサポートしている。
- ・ ボランティア募集開始はまだ先になりそう。当初は水戸などから日帰りできるボランティア、と考えていたが、これからどうしていくか要検討。
- ・ 放射性物質が降り積もっているという状況もあり、瓦礫の撤去などには注意が必要。

（アークス）

- ・ 募金活動を行なっている。NGO 関係に支援金としてこれまで 5 団体に送った。
- ・ 仏教関係者で活動したいというところがあり、シャプラニールと一緒に炊き出しをしたり、物資が届いたりしている。

(ブリッジ エーシア ジャパン)

- ・ 3月29日に北茨城方面で調査。
- ・ 4月3日にスタッフ2名が岩手県入りし、宮古方面で調査を実施中。
- ・ できる限り早急に支援活動を開始したい。

(JHP 学校を作る会)

- ・ 「つなプロ」に13名が参加。
- ・ 独自に支援物資、ボランティアを派遣。3/19に1次隊を出し、これまでに5次隊まで派遣。スタッフに南三陸町出身者がいるので、そこでボランティアセンターとも関わりつつ活動している。

(難民支援協会)

- ・ リーガルエイドとして法律面でのサポートを実施。避難所で勉強会、レクチャーなどを開き、そのあと個別相談にもっていく。
- ・ 女性向けのサポートとして、避難所などで女性の安全を確保できるようにプロテクションの活動を実施。パンフレットやチェックリストの配布など。

(チャイルド・ファンド・ジャパン)

- ・ 先週は緊急物資配布。石巻のピースポートに炊き出し用の食材を届けた。
- ・ 岩手県内の拠点づくりのために調査を行い、可能性を探っている。

(世界宗教者平和会議日本委員会)

- ・ 加盟団体への勧募、街頭募金を実施
- ・ 宮城、岩手、福島で状況・支援の可能性を調査
- ・ 今後の支援方法を検討中

(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)

- ・ 「子どもひろば」と呼ぶチャイルド・フレンドリー・スペース7つを宮城県内に開設。
- ・ 岩手県でも8つ設置の予定。
- ・ 日用品の配布を先週から実施。学用品の配布も準備中。

(シェア)

- ・ 宮城県名取市で行っていた緊急医療支援は終了。
- ・ 気仙沼市立病院で、愛媛県や兵庫県の医師らと在宅支援隊を作り、在宅被災者のケアを主に実施。大きな避難所では医療支援が行なわれており、医薬品も入ってきているが、

在宅の高齢者、障害者などは医療の面で今後サポートが必要になってくる。

- ・ 気仙沼は訪問看護ステーションがあったが、かなり被害を受けている。その業務が軌道に乗るまで長期的にサポート。

(ワールド・ビジョン・ジャパン)

- ・ 登米市、気仙沼市、南三陸町で支援物資を配布。
- ・ 学校と提携してチャイルド・フレンドリー・スペースを開く。
- ・ 避難所での炊き出し実施の調整中。
- ・ 主に宮城県で仮設や支援住宅に入った方々に必要な日用品などを配布する支援を考えている。日赤が電化製品を配ろうとしているので、調整をしながら。

(JOCS)

- ・ 3月中旬から10日ほどは仙台市内の避難所で診療していたが、そこでのニーズはなくなってきたので終了。
- ・ 釜石の被災した教会と協力しながら在宅の被災者の診療を開始。避難所も医療チームが撤退して取り残されてしまう所などで診療を行う。

(Give 2 Asia)

- ・ 長期のつもりで助成を検討しているが、短期ニーズもあれば教えてほしい。

(博報堂 中野さん)

- ・ なるべくまとめて募金に企業のお金をもってきてたい。
- ・ 広告を若手クリエイターに作ってもらう企画
- ・ 個人的にはRQ市民災害救援センターで登米の現場をみてきた。地元の人と信頼関係をつくりながらよい活動をしている。コーディネーターが圧倒的に不足しており、ボランティアを差配するには相当きめこまかい配慮が必要と感じた。のちほどピースポートにもどうやっているのかきいてみたい。

(OISCA)

- ・ 週前半、宮城県の女川で調査。調査中に防寒着がほしいという要望があり、ある企業の協力で1700着寄付を受け、配布の準備中。
- ・ フィリピン大使館からの要請で、フィリピン人の避難者へ毛布を提供した。今週木曜日に大使館関係者が福島県に行き調査をするとのこと。医薬品、紙オムツ等の支援が必要になるため、近場で提供できるところがないか確認中。
- ・ 今後の支援は検討中だが、子どもたちへの環境教育として、「森のつみ木広場」という、間伐材のつみ木を使った情操教育を10年ぐらいやってきた。今後子どもの支援をして

いる団体と連携できれば。

- ・ 国内外の募金に加え、パプア・ニューギニア、フィリピンなどからお見舞い金をもらっている。これらの活かし方を検討中。

(NCC 日本キリスト教協議会)

- ・ 日本基督教団など6つの加盟教団と、CCA (アジアキリスト教協議会) の支援窓口。
- ・ 具体的な活動は被災者の避難のための住宅の情報提供と連絡窓口。
- ・ 韓国のCCAとも連携。20人の教会関係者が入り、仙台の教会と連携して活動を模索。
- ・ 仙台、盛岡でボランティアを募集。
- ・ WCCがジャマイカで5月1日から行う国際会議でパネル展示ができるか問い合わせ中。

(トヨタ財団)

- ・ 組織としての震災に対する動きについて正式な決定はまだなされていない。震災に対しても助成財団として、NGO、NPO、中間支援組織の支援に関わっていくことを念頭にニーズについて情報収集中。
- ・ 通常の助成プログラム、アジア隣人プログラムが4/1から公募開始。5/1まで。

(CSO ネットワーク)

- ・ 直接の支援活動はしていないが、情報収集のため参加。
- ・ 東日本大震災支援全国ネットワークで情報を英語で発信することを手伝っている。

(東京英語いのちの電話)

- ・ 日本精神神経学会やその他の団体などのHPを通じて、国際基準の災害やトラウマに関する対応の仕方のガイドラインや資料を提供。
- ・ 電話でのカウンセリング
- ・ IMC (INTERNATIONAL MEDICAL CORPS)との協力
- ・ 今週から米国より専門家を招き、臨床心理士やボランティアなどに対するファーストエイドなどのトレーニングを開始。今後トレーニングを終了した人を現地入りさせる予定。

(ヒューマンライツ・ナウ)

- ・ 活動方針を決めるのはこれから。今のところ避難所で法律相談などを行っている。
- ・ 支援についての情報はかなりあるが、人権に関する問題はなかなか入ってこないで、どういう調整がなされているのか聞きたい。
- ・ 日本の法律家で作っている団体なので、被災状況にある人の人権保護について、国際法にもとづいて情報提供していく。

(ソニー)

- ・ MLでも配信しているが、エンターテインメントパックの提供、木曜までの受付。子ども、一般向けのDVD、ソフトウェアを提供。20本ひとパック。25団体まで。TV、DVDなど機器も含めたものを25団体。現地で活動する団体に役立ててほしい。申込はメールでソニー株式会社 CSR部 csr-relief@jp.sony.com。
- ・ ボランティアの派遣も検討。多賀城市の社協と協力。東京からも派遣したい。協力できるパートナー団体があれば一緒にやりたい。
- ・ 映像、写真に関するニーズがあると聞いている。ハンディカム、デジカメなどにかかわるもの、デジタル化、写真の復元など、ニーズがあれば教えてほしい。
- ・ 仮設に入った方への電化製品配布の話があったが、当社にはエンジニアがたくさんいるので、役立てることがあれば声をかけてほしい。阪神大震災時はアンテナ設置などを行った。

(味の素)

- ・ 第3回から参加。
- ・ 調味料の安定供給が当社の使命。生産設備は大丈夫だったが、商品保管倉庫がやられ、商品の遅配が起きている。自動倉庫が復旧するのに半年ぐらいかかるので、仮設倉庫で荷だし作業をしている。徐々に安定供給ができるようになる。
- ・ 従業員の社会貢献的活動として人事部がボランティア休暇を使ったボランティアとして、調布にある味の素スタジアムに福島県から原発がらみで避難している人を対象に炊き出しを実施中。
- ・ CSR部としては中長期的ボランティア活動ができればと考えている。
- ・ 計画停電のため、味の素川崎工場では自家発電をガスでできるように備えている。3/11の夜から切り替えた。土、日、深夜など、計画停電のないときにプラントを動かすなどの工夫をしている。

(大和証券)

- ・ 社員ボランティアの制度は今までないが、そういう制度を含め情報提供したいと思ってここに参加。
- ・ 金融に関する提言活動。有名になっているのは連帯税ばかりだが、金融の仕組みを使って復興のための構想をつくっていきたい。お金の面でのサポートのニーズについて情報があれば知らせてほしい。

(デベックス日本支社)

- ・ 国際協力・交流業界に特化した情報サービスを実施している。
- ・ 今回の震災については、メディアとしてNGOの活動について情報提供。JANICや東

日本大震災ネットの動向、寄付先についてなど記事をのせている。

- ・ 支援金と義捐金の違いなどについても情報提供。現在ある寄付先リストはどれぐらいマージンをとっていないかでランキングしているところが多いようなので、そうでない情報提供をしたい。
- ・ 海外メディアの報道のギャップを埋める活動
- ・ 人材紹介。求人情報は無料で掲載している。
- ・ 海外の NGO や企業で活動したいというところがあればマッチングを手伝う。
- ・ NGO の活動について取材し、サイトに載せているので今後も協力をお願いしたい。

(JANIC)

- ・ 東京では東日本大震災支援ネットワークで2つの役割がある。常任世話団体として、また JPF と組んで国際チームをつくり、国際 NGO が来る場合のコンタクトは JPF もしくは JANIC が窓口ということにしている。
- ・ 仙台市に広域調整事務所を置く。JICA 東北の事務所の一部を借りる。そこは 4/9 からしか使用できないので、せんだい・みやぎ NPO サポートセンターの上のインキュベーション・センターで机を一時的に借りている。
- ・ 宮城では連携復興会議、社協の会議などが行われているが、全部出るのがいいかどうかは検討中。
- ・ 震災支援タスクチームは、仙台は一瀬と竹内（ボランティア）、東京は田島、藤岡の体制でやっていく。
- ・ 大橋が伊知地さんら内閣府のチームと石巻、気仙沼などを回り、石巻ではピースポート、気仙沼では SVA に挨拶した。現地での NGO の活動スタイルはいろいろだと感じた。各団体のスタイルを尊重するが、コーディネーションの必要性があると感じられたところでは今後入るところもあり得る。ただし、ミーティングがあまり増えるのもよくないので必要に応じて。
- ・ 福島に入っている NGO が少ないことはいろいろなところで指摘されている。

3. 意見・情報交換など

3.1 Inter Agency Meeting のシェア(毎週土曜日 1:00-4:00 大手町ビルにて開催。国連機関、外務省、外国 NGO、日本の NGO 等が参加。言語は英語。)

CSO ネットワーク(黒田): 初めて参加した。参加しているのは JPF メンバーの NGO と国際機関、USAID、JICA など。自己紹介のあとで、クラスター別に分かれて、教育、子ども、物資配布など、CSO ネットワークは WFP などと一緒にクラスターに入った。コーディネーション、アセスメントをどうするか、ということが議題として出た。

3.2 意見交換

大江 (JOCS): 既知の米 NGO 関係者より、日本が援助を拒んでいる、ということが米メディアの記事で書かれ、NGO にとって厳しい状況ということだったので、そうでないということをお願いしてほしい、とのことだった。

山口 (JANIC): Recommendation は大江さんからのサジェスションがあって、日本の市民社会は海外からの支援を歓迎している、という内容を加えた。

大橋 (JANIC): 先週末の時点で OCHA が災害救援 Situation Report を出している。OCHA の見解として、コーディネーションの課題は残しつつも、物資については国の内需で賄える、というのが国連見解。経済活動を落ち込ませないためにも。

現場レベルでもいくつかの団体から報告があったとおり、モノの供給、燃料については状況は改善しつつあるが、仙台市内のガソリンスタンドはまだ混んでいる。

合田 (ピースポート): 週末にかけて仙台は混む。家族に会いに行ったり、救援ボランティアに入る人がいたりするため。物資については、毛布などはかなり行きわたっているが、在宅や車で寝泊りしている人などのニーズは把握できていない。

山口 (JANIC): 炊き出しに関して、ワールド・ビジョン・ジャパンが避難所で大規模に引き受けるということだが。

片山 (JANIC): 宮城では自衛隊で手が回らない避難所がたくさんあるため、民間で可能な団体に自衛隊のできないところをやってほしい、という声かけがあった。WVJ としてはそれがなくても炊き出しはやるつもりだった。最初自衛隊が食器、食材などすべて負担するという話もあったので、それでは下請けのようになってしまうと危惧したが、そうではなく自分たちで調達する必要があるとのこと。

今後がれきの撤去が大きな課題となるはずだが、NGO には情報は来ているか？

内閣府震災ボランティア連携室 (伊地知): 石巻では自衛隊によりかなり瓦礫の撤去が進んでいる。南に行くにつれ、まずは道路づくり、という印象。瓦礫の撤去はある程度は自衛隊がやる、ということだが、民間業者も今は入っている。最低限のインフラをつくる場所は自衛隊がやる。

合田 (ピースポート): 行政機関も被災して動かないため、ヘドロの掃除など、できるなら NGO でやってほしい、という意見があり検討中。やることになれば、ボランティアを 500 人ぐらい投入することになるだろう。

内閣府ボランティア連携室 (伊地知): ボランティアの受け入れは地方行政によってかなり違う。石巻は積極的に受入る姿勢、大槌は明確に来ないでいい、そのほか、補完的に入るのはいいが、用意ができるまで受入れない、というところもある。

中野 (博報堂): 石巻や気仙沼は町村合併で大きくなっているため、手が届かないところがたくさんある。ボランティアによる瓦礫の撤去や泥のかきだしなど始めている。仙台からの学生ボランティアなど来ているが受入準備がまだ整っていない。マシブなボランティア情報については内閣府のボランティア支援室のほうで情報を出すのか？

伊地知（内閣府）：まとめているところがあればお聞きしたいが、今はないので、ウェブサイトを見て把握しようとしている。今後は東日本大震災支援全国ネットワークに載っていくのかと期待しているが。

中野（博報堂）：現地にいる人はネットに情報をアップするような余裕はないし環境も整っていない。かなり東京から手助けが必要。

合田（ピースポート）：ピースポートではボランティアのコーディネートは基本的に東京でやり、なるべく現地に負担をかけない。5 - 6 人ずつのグループをつくる。90 人の中に 20 組ぐらい。救命救急のトレーニングなどを実施。リーダー、サブリーダーは、自分たちの中で決めてもらっている。リーダーは連絡窓口としての役割が大きい。誓約書も書いてもらっている。ピースポートが石巻で請け負っている仕事は力仕事が多い。看護師などからマッチングの希望もくる。東京では基本的に体力仕事で専門性を生かそうというものではないが、現地で臨機応変にやってほしい、と伝えている。海外からの個人ボランティア希望もある。安定的に現場に人を供給できれば社協などとも協力してやっていきたい。保険は 8 日間で行って帰ってくるので、14 日間のボランティア保険に入ってもらっている。

山口（JANIC）：4 月 1 日から災害特約がついたボランティア保険ができた。ひとり 1400 円。それに入れば来年の 3 月 31 日まで有効。期間中なら何回行っても使える。基本的には東京など出発地点で入ってほしいということ。払い込んで翌日からなので出発の前に手続きしてほしい。交通事故については出ない。NGO スタッフは対象外。ボランティアで行く人には必ずかけて行ってほしい。パンフレットがある。ML でも紹介する。

？：福島第一原発の 20-30 キロ圏内は、遺体の捜索などまだのため、これから暖かくなると感染症がはやるのでは。そういう可能性について情報はるか。

枝木（アークス）：今はそれよりは避難所でのインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染が心配されている。原発周辺では感染症が発生したとしても媒体がなければ広がらないのでは。過剰に心配しないほうがいい。

合田（ピースポート）：ピースポートでは感染症のリスクについても自己責任で行ってほしい、と伝えている。

片山（ワールド・ビジョン・ジャパン）：現地の人を雇うことについて。現場でユニセフ、WVJ、セーブ・ザ・チルドレンで子どもの支援をやってるので、コーディネーションミーティングをしている。地元の人のアルバイトの時給を最初 800 円で考えていたが、関係団体で情報交換した結果、千円をお願いしていた。そのあたりをオープンにやっていればお金についてはあまり問題ないと思う。長期に地元の人を雇うとなると、団体の給与体系に関わってくるので、差異が出てくるのはある程度仕方がない。

西口（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）：雇用については仙台市内で子ども支援をやっている NPO と相談した。子ども支援をする人たちの生活保障、支援者の支援も重要ということを考えての上で時給を決める必要があると考えた。時給の設定については多様

な考え方があると思う。

？：仙台の時給の相場はあるのか？

？：東京より低いと聞いている。短期アルバイトか、長期かにもよる。

山口 (JANIC)：海外では国連機関などが高い給与で人材をとってしまって他が困るということがあるので、同様のことは起こらないように注意が必要。

中野 (博報堂)：有償ボランティア、という言葉はあまり使わないのか？

西口 (SCJ)：SC は使っていない。パートタイムスタッフとして雇用。直接雇用の場合は社会保険もある。

合田 (ピースポート)：有償ボランティアというのは考え方としてありだと思うが、これだけ義捐金などが集まる中で、一般の人に理解してもらうのは難しいと感じる。ピースポのボランティアの人たちは現在食費も自分もち。2ヶ月、3ヶ月と続いてくると厳しいので、あらためて考えていく必要あり。

青尾 (トヨタ財団)：助成団体では、「専門家」という名前を使うと、有償であることに理解を得やすい。

西口 (SCJ)：セーブ・ザ・チルドレンでは子どもひろばの運営スタッフ、という名前でやっている。

山口 (JANIC)：もうすぐ申請受付が開始されるボランティア・NPO 活動支援募金は、費目として原則としては人件費はなし、ボランティア、アルバイトの日当はダメ。常駐のコーディネーターや専門性が高い医師、看護師などについての謝礼は可、となりつつある。

大橋 (JANIC)：すでにお伝えしているが、エリクソンのヘリコプターを使わせてもらえる。必要があれば問い合わせしてほしい。

次回 (第5回) 情報交換会

4月11日 (月) 15:00-17:00 に6F スカイラウンジで開催。

以上

(別紙)

出席者名簿

	団体名	氏名(敬称略)
1	シャプラニール=市民による海外協力の会	筒井 哲朗
2	ピースボート UPA 国際協力プロジェクト	合田 茂広
3	ブリッジ エーシア ジャパン	大津 祐嗣
4	JHP・学校をつくる会	田中 宗一
5	難民支援協会	篠山 顕子
6	チャイルド・ファンド・ジャパン	細井 なな
7	WCRP日本委員会	木塚 季代子
8	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	西口 祐子
9	恵泉女学園大学院	安部 早織
10	Give 2 Asia	ロシート・セラジーン
11	(株)博報堂	中野 民夫
12	内閣官房震災ボランティア連携室	伊地知 亮
13	公益財団法人トヨタ財団	青尾 謙
14	CSOネットワーク	黒田 かをり
15	東京英語いのちの電話(TELL)	佐々木 峰輝
16	ヒューマンライツ ナウ	米川 正子
17	〃	浅井 美絵
18	ソニー(株)	下川 寿代
19	味の素(株)CSR部	室井 孝之
20	大和証券グループ本社	河口 真理子
21	デベックス日本支社	高橋 宏太郎
22	シェア=国際保険協力市民の会	西山 美希
23	日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)	大江 浩
24	(公財)オイスカ	池田 浩二
25	ワールド・ビジョン・ジャパン	片山 信彦
26	アーユス	枝木 美香
27	JANIC	大橋、山口、富野、藤岡